

環境カウンセラーESD学会

平成29年度研究大会（新潟大会）研究論文発表

環境カウンセラー全国連合会（ECU）の賛助会員である私は、ホームページで公募された環境カウンセラーESD学会に論文を応募し、去る2月17日新潟薬科大学で行われた平成29年度研究大会にて論文を発表してきましたので報告します。

環境カウンセラーESD学会設立の目的

平成29年11月にその設立が建議され、環境カウンセラー全国連合会佐々木理事長のもとで開催された理事会によって活動が承認された。第1回の研究大会が、新潟薬科大学で開催されることになった。目的は学校及び地域におけるESDさらにその発展としてのSDGsの普及推進を「支援する」ために

- ① 学校、組織内教育、社会教育においてESD（SDGsを含む）を推進する教育者（Educators）を支援するとともに、教育者を協同してその学びを支える地域の教育指導者を養成する。
- ② 地域の多様なステークホルダーがGAPおよびESD国内実施計画に参加できるように、その機会をコーディネートする。
- ③ 上記のあらゆる場において活用するための、ESD推進の手引書や教材を作成する。

環境カウンセラーESD学会 会長

平成29年度研究大会実行委員長 寺本秀一氏
より転記

持続可能な地域づくり

Sustainable community design

～地域で継続的にESDを進めていくための方策とは～

概要

地域と学校との協働による学びの場づくりによって、子どもが地域の自然環境にふれ大人と学びあい、地域の未来について考えながら豊かな地域づくりに向けた活動について取り組んだ。

1. はじめに

近年、社会の進展に伴って、物質的な豊かさが広まり、価値観やライフスタイルも多様化しています。一方、地域社会においては、人々の集まる機会が少なくなり、お互いに支

え合おうとする意識が弱まるなど、人間関係が希薄になってきている。こういった状況は家庭を孤立化させたり、学校や地域活動への参加意識を弱めるなど、地域の教育力の低下をまねいている。

地域社会の在り方やそこに存在するものの見方や考え方は、人々の人権感覚の醸成のにも大きな影響を与えます。さまざまな人と出会ったり、多様な価値観に触れたりしながら、他者を尊敬する態度や共に生きていく姿勢が身についていく。したがって地域と学校とのつながりは大切だという認識を持つことが肝要です。学校教育法施行規則が（平成 25 年 11 月 29 日公布・施行改正 : 公立学校において、当該学校を設置する地方公共団体の教育委員会等が必要と認める場合は、土曜日等に授業を実施することが可能であることが明確化。）されたことに伴い岐阜県垂井町でも土曜日の教育活動推進計画が立案され平成 26 年度 10 月から始まった。

2. 内容

平成 26 年度 10 月から小学校（7 校下）の土曜授業が岐阜県垂井町全域に始まりまちづくり協議会（旧公民館）と学校との協働で、子どもたちの学習にあたることになり各地区で特色ある活動を進めることになった。特に地域のボランティアを活用することにより子どもたちがより豊かで有意義な土曜日を実現させることができることや又、地域とのかかわりにより郷土愛やふるさとへの愛着を持たせることが狙い。土曜授業が始まって今年で 4 年目になる。当初は初年度でもあり年度途中の 10 月でもあったために、3 回であったが、翌年度からは 1 年に 4～5 回活動を実施するようになった。

（2-1）学校土曜日授業における環境学習の推進

町内 7 小学校校下がそれぞれ創意工夫し地区独特の活動を進めることになって今年で 4 年目になる。活動内容としては地域の有識者によるスポーツ活動や農業体験さらには地域の歴史や文化財にかかわる活動、日本の文化伝統的な活動であるお茶・お花さらには環境防災にかかわる活動を実施した。

※ 2016 年度垂井町立合原小学校土曜授業実施（抜粋）

月/日	内 容	対 象
5/7	地球温暖化防止に関する知識	4～6 年
7/2	カワゲラウォッチング	4 年
10/1	スーパーでの産業廃棄物の知識	3 年
11/19	川の汚れについて考える	4～6 年
2/4	地球温暖化と省エネに関する知識	4～6 年

3. 考察

試行段階も含め平成 30 年 3 月で 4 年目が終了する。1 年ごとに子どもたちも体験や調査の活動を通した問題解決的な学習により少しではあるが、思考力・判断力・表現力が養われてきたと思う。又、ふるさとに対する誇りや愛着を育てたりすることなど、学んだことの習熟を図ることによって充実してきたことと思う。

平成30年度から実施される「新学習指導要領」の特色と ESD の授業づくりとの関連性や、学習指導要領によってこれまでの教育体系や内容についてどう変わっていくのか注意深く見ていく必要がある。私たち環境教育、環境学習を推進するには「学校教育と環境」について常に念頭において活動を推し進めなければならない。今後私たちが具体的に取組むことは一方的な知識だけでなく環境グッズやグループ活動を多く取入れることにより児童自身に考えさせることや問題意識を持たせることにさらに重点を置くことを目指している。そして今後は町内全域の住民を巻き込んだ活動にしていくことが必要と思う。このためには行政・学校・地域との連携が必要でありしかも継続的に活動を推進するためには環境カウンセラーの働きが大切だと思う。

(2016年垂井町立合原小学校活動例)

1、地球温暖化防止活動

2、企業活動（廃棄物処理等）

3. カワゲラウォッチ



(参考資料) : 2017年度中部地方 ESD 活動
支援センター (2018年1月19日研修の資料)